

第4回

市民会館の整備検討懇談会

令和元年12月16日

観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化振興室

目次

1	新たな劇場を目指す姿	・・・	1
2	利用状況等の分析	・・・	7
3	分析結果等から導かれる新たな劇場の需要	・・・	13
4	新たな劇場の施設構成（案）	・・・	15
5	新たな劇場のイメージとして参考になる施設	・・・	18
6	今後の整備検討スケジュール（案）	・・・	33

1 新たな劇場を目指す姿

(1) ミッション、位置付け、役割

■ ミッション

文化芸術の裾野拡大
(劇場文化の浸透)

■ 位置づけ

人々が楽しみ、引き込まれ、心打たれる
文化の香り高い名古屋の心つながる象徴拠点

■ 役割

ポップからハイカルチャーまで
より多くの人々が興味を引き
起こされる公演の上演施設

- 話題性ある演目で劇場に訪れるきっかけを創出し劇場への親近感を醸成
- 多様な演目に触れる機会を提供
⇒文化芸術への幅広い興味を誘発
頻繁に訪れたいくなる施設に
- 専門的人材を配置し、主体的に魅力ある事業を実施

市民の多様な文化活動を
促進する、名古屋発/初文化
の中核となる施設

- 名古屋文化の発展育成の拠点に
- 市民とともに名古屋発/初の文化芸術を発信・集積
- 市民の様々なジャンルの文化芸術活動に対応
- 魅力ある“ハレの場”をつくる

市民が気軽に訪れる、
人と文化の交流結節拠点
～感動と出会い、まちと
繋がる、開かれた劇場～

- 日常的に多様な人々が集い、賑わいを生み出す、新たな交流拠点
- “いつでも、誰でも、何かを経験できる”魅力的な空間や機会を提供
- 居心地が良く、一日中過ごしたくなる、市民の快適な居場所

■ 整備・事業運営の方針

- 国内外から注目され、市民の誇りと親しみを呼び起こす劇場
- より多くの人々が劇場に訪れる“きっかけ”となる公演の実施
- 市民の文化芸術活動を支え、発表の機会を生み出す環境づくり
- 人と文化芸術が盛んに行き交う、当地域を代表する文化交流拠点

1 新たな劇場が目指す姿

(2) 新たな劇場がもたらす効果

■ 新たな劇場の方向性

- ・ 主たる利用目的に相応しい規模・機能の実現
- ・ 鑑賞者、舞台利用者、施設運営者の視点に配慮した設備等の機能向上
- ・ バリアフリー化の徹底、フリースペース・飲食機能等の充実による快適性の向上
- ・ 利用受付方法等の見直しによる実演芸術の利用拡大
- ・ 貸館需要に十分配慮しながら、文化芸術の裾野拡大に資する自主事業を展開

■ 人々にもたらす効果

- ・ 実演芸術での利用が拡大し、話題性の高い魅力ある公演など**演目のバリエーションも増え、観賞機会の幅がひろがる**
- ・ 新たな劇場は**様々な“障壁”**が取り払われ**快適性**も高まるため、**誰もが気軽に、日常的に**劇場を訪れやすくなる
- ・ 劇場を通じ聴いて、観て、体感し、**自らも活動する市民が増え**、実演芸術の魅力をより身近に感じることができる
- ・ 名古屋の実演芸術が活性化することで**実演家等の活躍の場が拡がり**文化芸術団体の持続的発展への貢献も期待できる

■ 社会にもたらす効果

- ・ 文化芸術やエンタメが充実することで**都市魅力**が高まり、**観光消費**の誘発や**まち全体の価値**の向上が期待できる
- ・ 新たな劇場の魅力が高まることで、**名古屋への来訪動機**が高まり、国内外からの来訪者や転入人口の増加も期待できる
- ・ 新たな劇場では、**実演芸術と多様なジャンルが繋がる**ことで**新たな価値**が生まれ、**社会的課題**の解決にも貢献できる
- ・ 劇場周辺には飲食店、ライブハウス、芝居小屋など**相乗効果**が期待できる開発が進み、**まち全体の活性化**も期待できる

新たな劇場の価値が市民に評価され、親しまれる存在となることで、市民が誇れる名古屋のシンボルとなる

1 新たな劇場が目指す姿

(3) 他の文化施設とのすみ分け・役割分担

■新たな劇場のミッション・役割及び各文化施設の位置づけと特徴

- ミッション 文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）
- 役割・機能
- ・ポップからハイカルチャーまで、より多くの人々が興味を引き起こされる公演の上演施設
 - ・市民の多様な文化活動を促進する、名古屋発/初文化の中核となる施設
 - ・市民が気軽に訪れる人と文化の交流結節拠点 ～感動と出会い、まちと繋がる開かれた劇場～

施設名	名古屋市公会堂	芸術創造センター	青少年文化センター	文化小劇場
設置条例	市民文化の向上及び住民福祉の増進を図る	芸術文化の創造及び芸術活動の交流の場を市民に提供するとともに芸術文化に関する情報資料の共用等を行うことにより芸術文化の振興に寄与する	芸術文化の創造及び芸術活動の交流の場を市民に提供することにより青少年の芸術文化の振興に寄与する	市民の身近な文化活動の場を提供することにより、市民文化の振興に寄与する
文化振興計画	<p>〈鑑賞型〉</p> <p>a 市民などが利用する集会施設</p> <p>b 文化芸術公演の鑑賞の場</p>	<p>〈創造発信型〉</p> <p>a 名古屋らしい文化芸術の創造拠点</p> <p>b 文化芸術活動の交流拠点</p> <p>c 文化芸術関連の情報収集・発信拠点</p> <p>d 文化芸術における専門人材の配置及び育成する場</p>	<p>〈創造発信型〉</p> <p>a 青少年の文化芸術活動拠点</p> <p>b 青少年の文化芸術活動の交流拠点</p> <p>c 青少年の文化芸術関連の情報収集・発信拠点</p> <p>d 文化芸術における専門人材の配置及び育成する場</p>	<p>a 地域文化発信の拠点</p> <p>b 市民が身近に文化にふれる場</p> <p>c 市民の参画と協働の場</p> <p>d 地域に密着した事業を展開する場</p> <p>e 各館が連携し市内全域に公共サービスを提供する場</p>

各施設の役割・機能を活かしながら自主事業の展開や利用申込みにおいて、有機的に連携しながら一体となって文化芸術の裾野拡大に取り組む必要がある

1 新たな劇場を目指す姿

(4) 愛知県芸術劇場とのすみ分け

	新たな劇場	愛知県芸術劇場
ミッション	文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）	本格的な舞台芸術を鑑賞する機会の提供
役割・機能	<ul style="list-style-type: none">・ポップからハイカルチャーまで、より多くの人々が興味を引き起こされる公演の上演施設・市民の多様な文化活動を促進する、名古屋発/初文化の中核施設・市民が気軽に訪れる、人と文化の交流結節拠点	高水準の舞台機構や豪華な雰囲気の中核施設を 活かしたオペラ、バレエ等の本格的な舞台芸術 を提供する施設
具体的な方策 (自主事業展開)	<ul style="list-style-type: none">・人々の興味を誘発する話題性のある公演やハイレベル/最先端なステージの誘致。・市民が日常的に訪れ、居場所となる“まちに開かれた劇場”とするため開放感のある居心地の良い空間を創出・オープンスペースを活用した文化芸術が身近に感じられるプログラム等の実施・既存文化施設（文化小劇場、青少年文化センター等）との有機的な連携事業の実施による文化力の底上げとステップアップの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none">・大ホール 多面舞台を活用した本格的なオペラやバレエ公演（二期会定期オペラ）・コンサートホール 専門ホールの特性を生かしたフルオーケストラやパイプオルガン公演・小ホール 先駆的・実験的な舞台作品の上演 （現代音楽・コンテンポラリーダンス）

1 新たな劇場が目指す姿

(5) 新たな劇場の位置付け① 施設外観と大ホールの役割

■ 新たな劇場の施設外観

名古屋の文化芸術を象徴するランドマークに相応しい外観を備えることにより、ビジュアル面からも新しい文化芸術のあり方を広く発信することで、国内外から名古屋を訪れる“デスティネーション”とすべき

■ 大ホールの役割

大ホールは、音環境をしっかりと作り込むことで、著名アーティストから絶賛される劇場を目指すことにより国内外から質の高い実演家を引き寄せ、日本の中心に立地する名古屋の交通利便性を活かした多くの鑑賞者を集める劇場を目指す

名古屋の利便性を活かした劇場経営



■ 世界のデスティネーションの事例

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

台中国家歌劇院

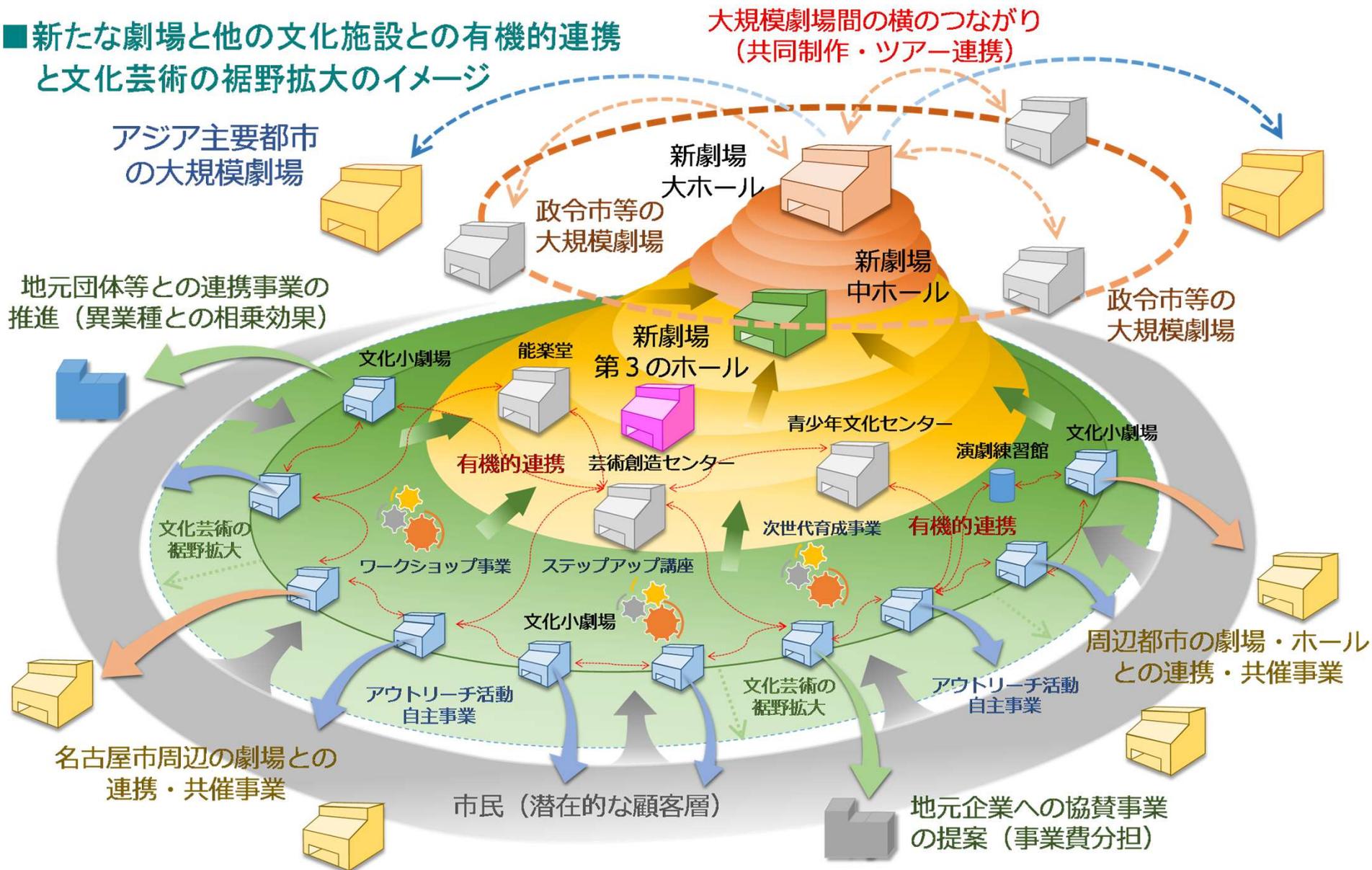
著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

シドニーオペラハウス

1 新たな劇場が目指す姿

(6) 新たな劇場の位置付け② 他の文化施設との有機的連携

■ 新たな劇場と他の文化施設との有機的連携 と文化芸術の裾野拡大のイメージ



- ・ 文化団体の活動の魅力や評価が高まるとともに、集客力に応じて求められる劇場の座席数が拡大
- ・ 文化芸術に対する市民の興味・関心が高まると同時に、より大きな・上質な劇場を志向する

2 利用状況等の分析

(1) 大ホール ①クロス集計（利用ジャンル×利用規模 平成28年度・平成29年度累計）

単位：人

	2200 以上	2100 ～ 2199	2000 ～ 2099	1900 ～ 1999	1800 ～ 1899	1700 ～ 1799	1600 ～ 1699	1500 ～ 1599	1400 ～ 1499	1300 ～ 1399	1200 ～ 1299	1100 ～ 1199	1000 ～ 1099	900 ～ 999	800 ～ 899	700 ～ 799	600 ～ 699	500 ～ 599	400 ～ 499	300 ～ 399	200 ～ 299	100 ～ 199	総計		
クラシック	6	1	15	2	6	7	5	8	8	10	8	7	11	3	1	3	2							103	11.5%
軽音楽	31	18	40	26	25	10	10	34	13	7	21	18	29	15	3	1	8	5	3	10				327	36.5%
歌劇			2	9	9	4	8			1			4		4									41	4.6%
演劇	6		29	4	11	4	33	16	8	11	9	5	1		1		4	2						144	16.1%
洋舞	3						1	3	1	1	4		2	2	1		2	2	2				2	26	2.9%
邦楽・邦舞		1			4	1	8	1	1	8	4	1			1		1							31	3.5%
寄席・演芸	12	1	5			4		6	1		1		4											34	3.8%
映画			1		1		1									2							1	6	0.7%
講演会等	11	1	4	2	3	2	18	12	7	11	14	7	23	11	10	6	12	4	5				1	164	18.3%
その他	1	1	2		1		1	1		2	1	4	2				1	1				1		19	2.1%
総計	70	23	98	43	60	32	85	81	39	51	62	42	76	31	23	10	30	14	10	10	1	4		895	
	7.8%	2.6%	10.9%	4.8%	6.7%	3.6%	9.5%	9.1%	4.4%	5.7%	6.9%	4.7%	8.5%	3.5%	2.6%	1.1%	3.4%	1.6%	1.1%	1.1%	0.1%	0.4%		100.0%	

- ・「軽音楽」36.5%と「クラシック」11.5%で全体の半分近くを占めており、大ホールは音楽利用のニーズが高い。
また、音楽利用の場合、2000人近くが利用規模のピークになっている。(赤枠)
- ・集会的利用の「講演会等」を除くと「演劇」は「軽音楽」に次いで利用が多く、利用規模は1000人～2000人付近に集中しているものの、その利用実態を見ると子ども向けキャラクターショーやミュージカル等での利用が多い。(青枠)

2 利用状況等の分析

(1) 大ホール ②クロス集計（利用者種別×利用規模 平成28年度・平成29年度累計）

単位：人

		2200 以上	2100 ～ 2199	2000 ～ 2099	1900 ～ 1999	1800 ～ 1899	1700 ～ 1799	1600 ～ 1699	1500 ～ 1599	1400 ～ 1499	1300 ～ 1399	1200 ～ 1299	1100 ～ 1199	1000 ～ 1099	900 ～ 999	800 ～ 899	700 ～ 799	600 ～ 699	500 ～ 599	400 ～ 499	300 ～ 399	200 ～ 299	100 ～ 199	総計		
市民利用	文化芸術 団体	4		6		5	5	9	3	5	12	5	2	6	2	4	4	9	3	1				2	87	9.7%
	学校・ 教育機関	10	1	5	1	4	2	11	7	3	11	13	4	13	2	2	1	6	5	2	1	1	1	1	106	11.8%
	市民団体・ 地域団体			1				1	2	1		1	1	2											9	1.0%
興行等	興行主	52	20	61	34	41	21	27	53	15	9	28	26	35	17	5		4	1					1	450	50.3%
	企業等	3	1	11	5	4	1	10	10	10	14	11	2	20	6	6	5	11	4	5	9				148	16.5%
行政関連	外郭団体 (名フル)			1	1	2	2	6	3	4	3	2	4												28	3.1%
	指定管理者										2					3			1	1					7	0.8%
	行政機関等			10	1					1		1	2			3									18	2.0%
	名古屋市	1		2	1	3	1	21	2			1	1		4					1					38	4.2%
その他		1	1		1			1																4	0.4%	
総計		70	23	98	43	60	32	85	81	39	51	62	42	76	31	23	10	30	14	10	10	1	4	895		
		7.8%	2.6%	10.9%	4.8%	6.7%	3.6%	9.5%	9.1%	4.4%	5.7%	6.9%	4.7%	8.5%	3.5%	2.6%	1.1%	3.4%	1.6%	1.1%	1.1%	0.1%	0.4%	100.0%		

全体の55.0%

全体の30.2%

- ・1500人以上の利用規模は全体の55%を占め、その内「興行等」の利用は約7割、「市民利用」は2割弱となっている。特に「興行等」の利用規模を見ると2000人以上のニーズが最も高い。(赤枠)
- ・1500人未満での利用規模は、興行等の利用が約6割、市民利用が約3割と相対的に市民利用の割合が高い。(青枠)
- ・現・大ホール1階席(1542席)以下、現・中ホール(1146席)以上の利用帯である1000～1499人の利用が全体の30%以上あり、「市民利用」「興行等」とともにニーズが高い。(緑枠)

2 利用状況等の分析

(2) 中ホール ①クロス集計（利用ジャンル×利用規模 平成28年度・平成29年度累計）

単位：人

	1100人以上	1000～1099人	900～999人	800～899人	700～799人	600～699人	500～599人	400～499人	300～399人	200～299人	100～199人	総計	
クラシック		1	3	5	1	4	2	3	1	1	1	22	2.3%
軽音楽	9	23	20	13	16	18	23	12	23	32	6	195	20.0%
歌劇		6			3							9	0.9%
演劇	4	34	47	43	82	125	40	5	6	1	27	414	42.5%
洋舞	1	1	1	3	10	5	11	5	6	2	1	46	4.7%
邦楽・邦舞	7	13	8	10	7	20	3	3		3	4	78	8.0%
寄席・演芸	11	6	6	8		1		8				40	4.1%
映画		1	1	2		1						5	0.5%
講演会等	9	17	8	29	19	18	16	10	6	13	9	154	15.8%
その他	2	2	2	1			2				2	11	1.1%
総計	43	104	96	114	138	192	97	46	42	52	50	974	
	4.4%	10.7%	9.9%	11.7%	14.2%	19.7%	10.0%	4.7%	4.3%	5.3%	5.1%	100.0%	

全体の50.1%

- ・利用規模別で見ると、700人以上の利用規模が全体の過半数を占めている。（赤枠）
- ・利用ジャンル別で見ると「演劇」の利用が最も多く、全体の4割以上を占めている。
また「演劇」の利用規模をみると600人から900人前後のニーズが特に高い。（青枠）
- ・「演劇」に次いで「軽音楽」の利用も高く、全体の2割を占めている。（黄枠）
- ・「邦楽・邦舞」の利用率の高さも名古屋の特徴であり、文化的土地柄が反映されている。（緑枠）

2 利用状況等の分析

(2) 中ホール ②クロス集計（利用者種別×利用規模 平成28年度・平成29年度累計）

単位：人

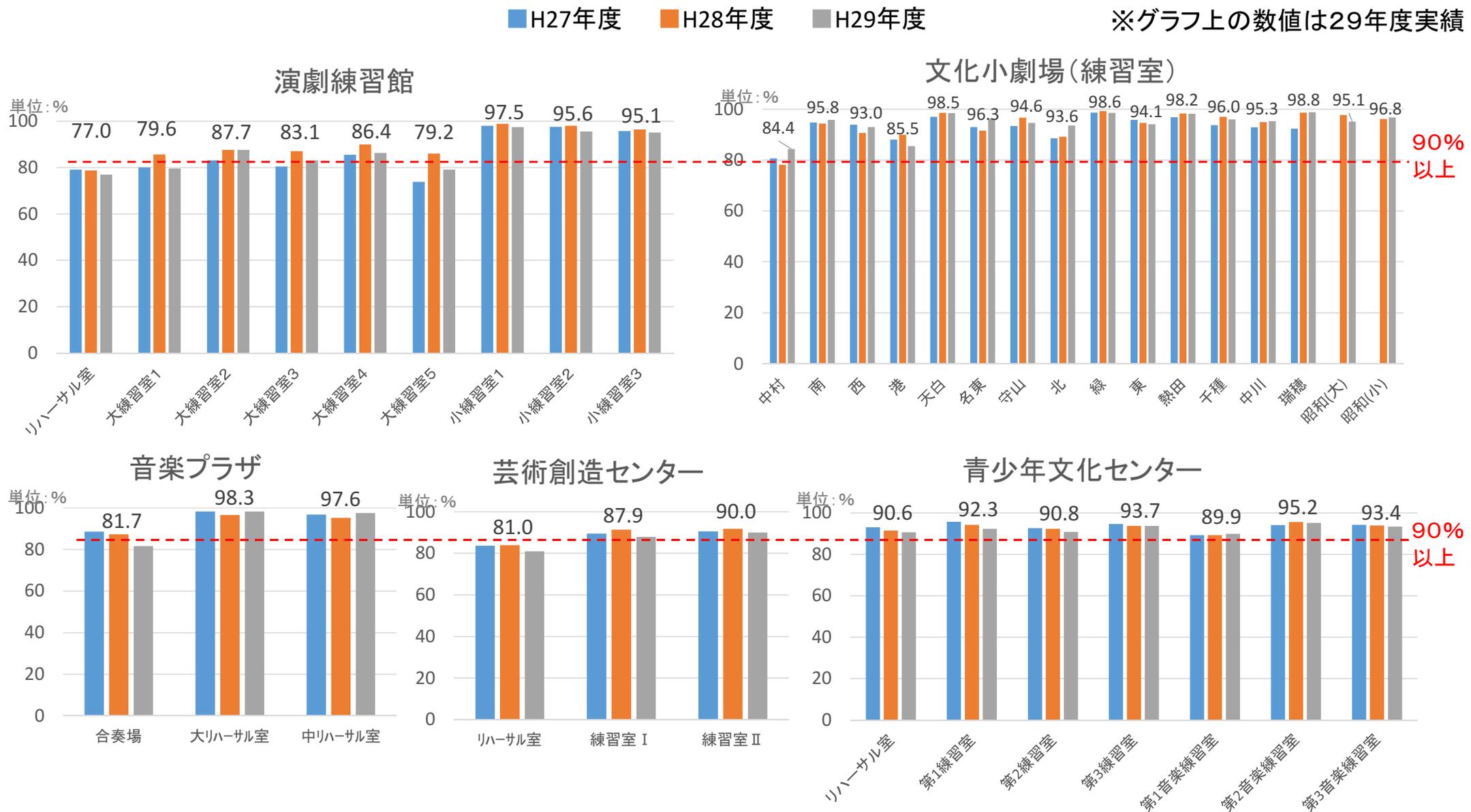
		1100人 以上	1000～ 1099人	900～ 999人	800～ 899人	700～ 799人	600～ 699人	500～ 599人	400～ 499人	300～ 399人	200～ 299人	100～ 199人	総計	
市民 利用	文化芸術団体	9	21	11	14	19	21	26	12	9	5	7	154	15.8%
	学校・教育機関	2	8	4	12	6	11	10	8	6	2	2	71	7.3%
	市民団体・地域団体				3								3	0.3%
興行 等	興行主	22	58	57	63	88	106	35	11		3	28	471	48.4%
	企業等	7	14	7	20	16	17	10	11	23	33	7	165	16.9%
行政 関連	外郭団体 (名フィル)												0	0.0%
	指定管理者			1		4		4	1	4			14	1.4%
	行政機関等					3	1		1		5	6	16	1.6%
	名古屋市		1	16	1	2	36		2		4		62	6.4%
その他	その他	3	2		1			12					18	1.8%
総計		43	104	96	114	138	192	97	46	42	52	50	974	
		4.4%	10.7%	9.9%	11.7%	14.2%	19.7%	10.0%	4.7%	4.3%	5.3%	5.1%	100.0%	

- ・大ホールと同様に、中ホールも「興行主」の利用が最も多い。（赤枠）
- 一方、「市民利用（文化芸術団体）」の割合は、大ホール（9.7%）よりも中ホール（15.8%）の方が高いのが特徴である。（青枠）

※大ホールの市民利用（文化芸術団体）：9.7%

2 利用状況等の分析

(3) 各文化施設のリハーサル室・練習室等 過去3年間の利用率推移 (コマ単位)



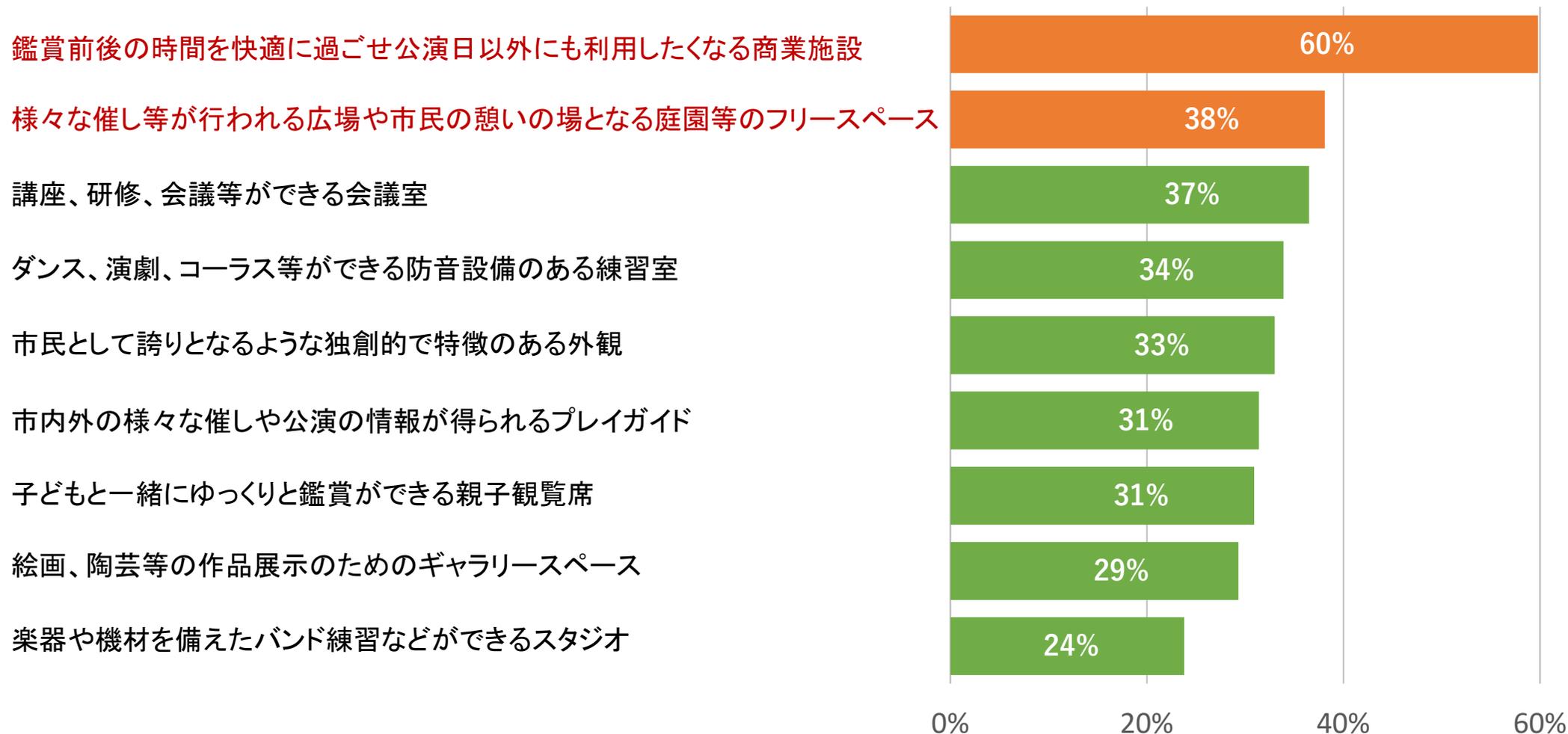
ほとんどの文化施設のリハーサル室・練習室等は、コマ単位の利用率が90%以上で推移しており、高止まりしている状況であり、**日数単位ではほぼ100%**となっている。 ※コマ単位：午前・午後・夜間の分類等

2 利用状況等の分析

(参考) 名古屋市の文化施設に設置を期待する機能や設備

平成29年名古屋市ネットモニターアンケート

※複数回答可



「鑑賞前後の時間を快適に過ごせ公演日以外にも利用したくなる商業施設」や「様々な催し等が行われる広場や市民の憩いの場となる庭園などのフリースペース」等の誰でも気軽に訪れることができる“開かれた場所”としてのニーズが高いことが分かる。

3 分析結果等から導かれる新たな劇場の需要①

① 新・大ホール

- ・ 興行等の「軽音楽」に対するニーズがとても高い一方、クラシックへのニーズも一定数見られる。
- ・ 「軽音楽」に次いで「演劇」の利用割合が高いものの、本格的な実演芸術というよりは、子ども向けのミュージカルやキャラクターショー等での利用が多い。
- ・ 利用割合の高い「軽音楽」、「演劇」の利用規模は2000人付近に集中している。
- ・ 愛知県芸術劇場大ホール（2480席）もあるため、大規模ホール同士の規模的なすみ分けが必要。

適正規模： 2000－2200席 （現市民会館大ホール 2291席）

性格付け： 音響のバランスに配慮したプロセニウム型「音楽」主目的ホールを想定

主な特徴： 軽音楽・ミュージカル等の利用に比重を置いた舞台設備を充実させるとともに、クラシックの利用を想定して音響反射板を設置し、将来需要に対応可能な汎用性、拡張性も確保

② 新・中ホール

- ・ 興行需要の最も高い1500席規模のホールが相次ぎ閉館し、現市民会館の利用実態としても1000～1500人の利用帯において、あらゆるジャンルで満遍なくニーズが高い。
- ・ 興行の採算性の観点から、プロモーターを中心に現市民会館中ホールの客席数の拡大を望む声が多い。
- ・ 「邦舞・邦楽」の利用が多いという地域的特色がある一方、現市民会館は花道設営の関係上、客席面の勾配が低く、客席から舞台上の演者の足元が見えにくい点などの鑑賞環境の課題解消が必要。

適正規模： 1300-1500席 （現市民会館中ホール 1146席）

性格付け： 客席からの視認性に配慮したプロセニウム型「邦舞・洋舞」主目的ホールを想定

主な特徴： 観客一人ひとりが舞台上の魅力あるパフォーマンスを存分に観賞できる客席勾配と、利用実態を踏まえた花道など舞台機構との両立を図る

3 分析結果等から導かれる新たな劇場の需要②

③ 第3のホール

- ・ 現市民会館の需要動向を見ると「演劇」利用が非常に多いが、適した規模のホールが市内には存在しない。
- ・ 演者と観客の一体感を生み出す空間として、演劇面で評価の高いホールは800席程度との声が多い。
- ・ 青少年文化センター・芸術創造センターなど中規模ホールとのすみ分けが必要。

適正規模： 800-900席

性格付け： 中ホールに集中している需要を分散させるため、第3のホールは演劇利用を主目的とし、芸術創造センターや青少年文化センター等とのすみ分けを考慮した施設構造や機能を想定。
大ホール同様に、将来需要に対応可能な汎用性、拡張性も確保。

④ その他諸室・共用部

- ・ リハーサル室や練習室等の利用率は90%以上で高止まりしており、慢性的に練習場所が不足。
- ・ 鑑賞前後の時間を快適に過ごせる飲食施設や、市民の憩いの場となるオープンスペースなど、誰でも気軽に訪れることができる“開かれた場所”としてのニーズが高い。
 - ・ ホールでの本番を想定したリハーサル室や練習室を備えることで、文化芸術活動の活性化を促すとともに、ホールと独立した利用ができるよう来場者動線や防音・防振に配慮する必要がある。
 - ・ 本番公演のない時間帯でも市民の文化芸術活動の様子を他の利用者が目にすることで、新たな発見や興味につながり、誰もが訪れ易い、にぎわいや人々の交流が生まれる劇場とする。
 - ・ オープンスペース等を活用することにより、誰もが気軽に発表でき、楽しめる“開かれた劇場”とすることで、市民にとって“居心地の良い場所”となる空間が必要。
 - ・ 劇場周辺とのつながりや来場者の回遊性を意識したハード整備・ソフト展開を進めることで、劇場を核として、まち全体で相乗効果を発揮する視点が必要である。

4 新たな劇場の施設構成（案）①

(1) 大ホール

基本コンセプト 「聴くホール」

- ・名古屋における文化芸術のランドマークとなり、全国から集客する“名古屋の実演芸術の殿堂”
- ・東海圏におけるクラシック音楽の発信拠点として重要な役割を担ってきた現市民会館の機能を継承

規模・性格

- ・2000-2200席
- ・主目的／音楽（軽音楽・クラシックなど）
- ・プロセニアム

主な利用形態

- ・ポピュラー音楽を中心とした国内外の著名アーティストの興行
- ・名フィルや他の交響楽団によるクラシック音楽
- ・ミュージカルや商業演劇等の公演
- ・話題性の高い演目や最新機能/設備による最先端の演目の上演
- ・従来の貸館における興行利用に加えて、運営者による自主事業利用をバランスよく実施

(2) 中ホール

基本コンセプト 「観る・魅せるホール」

- ・市民の多様な文化芸術活動を発表する“ハレの場”に相応しい上質な空間
- ・多様な公演需要に対応でき、話題性の高い魅力ある公演が集中する劇場

施設・性格

- ・1300-1500席
- ・主目的／邦舞・洋舞、軽音楽など
- ・プロセニアム

主な利用形態

- ・現市民会館でも利用されている邦楽・邦舞等といった花道等を活用した伝統芸能公演
- ・バレエ・現代舞踊など地元洋舞家団体等の公演
- ・市民の文化芸術活動のハレの場となる公演
- ・商業公演の多様なニーズに対応可能な設備
- ・実演芸術の魅力に触れる機会を市民に提供する自主事業

4 新たな劇場の施設構成（案）②

（3）第3のホール

基本コンセプト「体感するホール」

- ・様々な演目に対応可能な、ステージ・客席が可変できる劇場
- ・新しい演出・演目に対応できる設備
- ・多様なジャンルの先駆的な演目の上演に対応可能

規模・性格

- ・800-900席
- ・主目的／演劇・軽音楽など
- ・平土間

主な利用形態

- ・現中ホールで行われていた演劇や軽音楽の公演
- ・舞台位置・客席配置などを変更することで様々な公演に活用
- ・インバウンド向けのナイトタイムエコノミーを想定したノンバーバルなエンタテインメントの誘発

（4）ホール以外の施設

基本コンセプト「あらゆる人々の交流結節点」

- ・“いつでも、誰でも、何かを経験できる”総合的な文化芸術交流拠点
- ・まちに賑わいをもたらし、常に開かれた場
- ・新たなアイデアや取り組みを誘発してくれる空間

性格

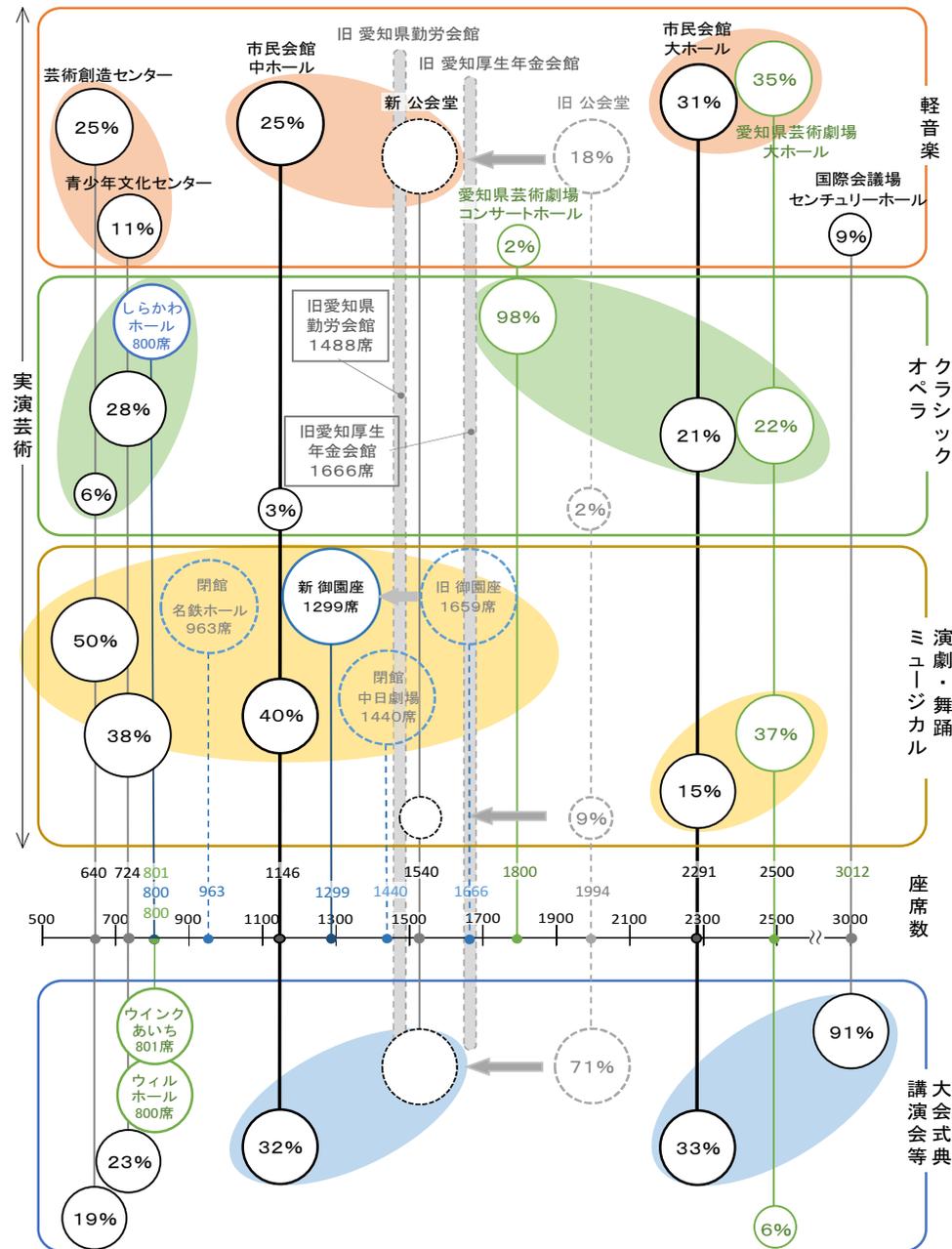
- ・リハーサル室、練習室など
- ・共用空間（フリースペース、野外スペース等）
- ・隣接施設（カフェ、レストラン、公園等）

主な利用形態

- ・市民文化活動や文化芸術団体の活動が“みえる”場
- ・ホール以外の様々なスペースで行われる、音楽、アート、パフォーマンス、ワークショップ等
- ・あらゆる人が気軽に立ち寄り、興味惹かれるオープンなフリーイベント

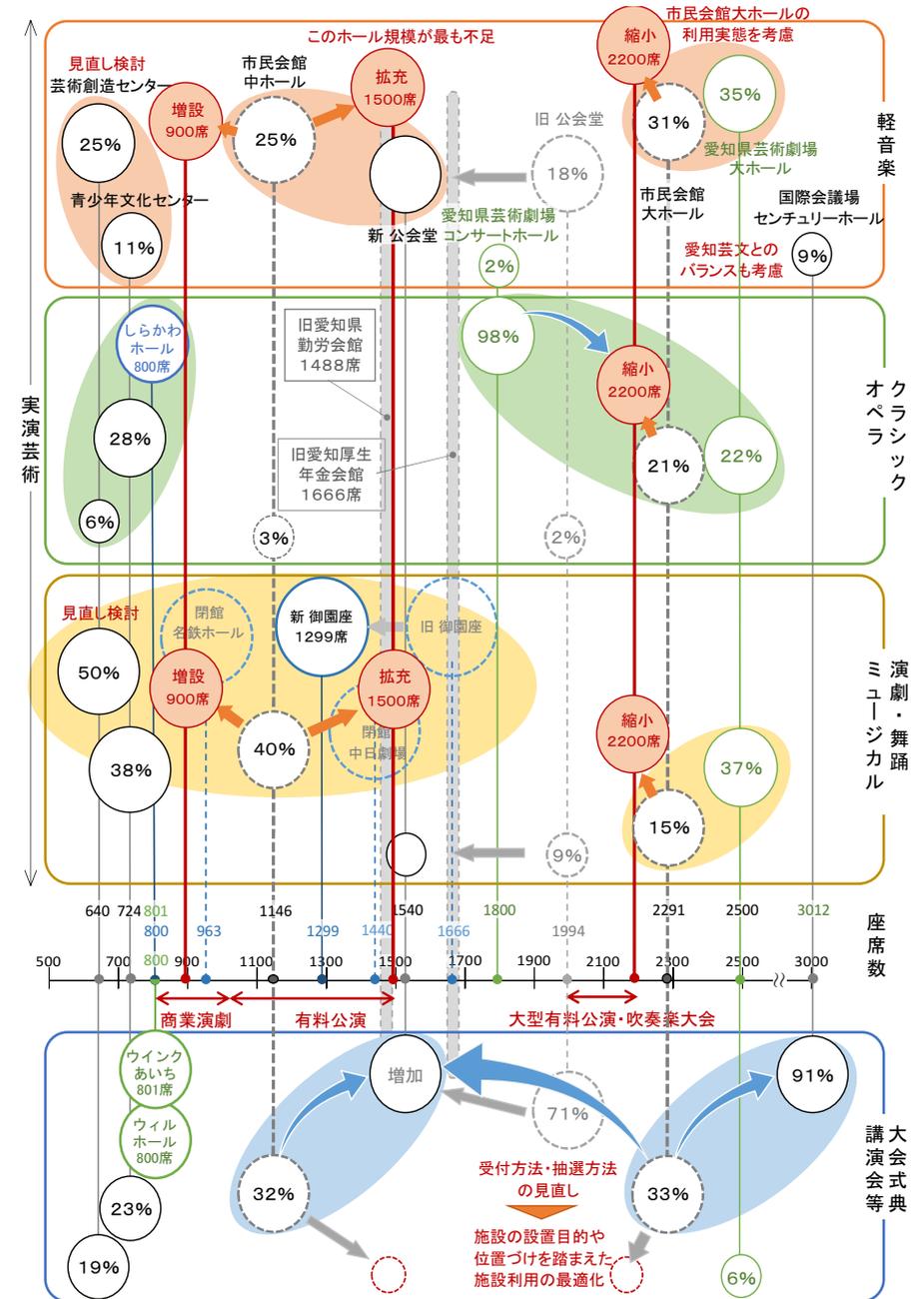
(参考) 新たな劇場と既存施設の棲み分け

名古屋市の大・中規模ホールの子ジャンル別の利用状況 (固定席ホールのみ)



※円内の%は平成29年度実績。ただし、公会堂のみ工事休館のため28年度実績

新たな劇場との棲み分け



※円内の%は平成29年度実績。ただし、公会堂のみ工事休館のため28年度実績

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(1) 大ホールイメージ ～フェスティバルホール～ 〈クラシックと軽音楽の両立〉 ①

■ フェスティバルホール

日本で音楽祭を開催できるホールとして、1958年に誕生。2013年春にリニューアルオープンを果たした。優れた音響が特徴で、大阪国際フェスティバルでは世界有数の管弦楽団が演奏する他、オペラ、バレエ、クラシックからポピュラーミュージック、ジャズ・ロック、能、狂言、舞踊と様々な芸術や演出、大掛かりな舞台セットにも対応可能。

■ 施設概要

- ・開館 2013年4月
- ・住所 大阪府北区中之島
京阪中之島線「渡辺橋」駅直結
地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅直結
- ・面積 敷地面積: 8,150㎡
建築面積: 5,725㎡
延床面積: 145,602㎡
- ・形状 固定席 2,700席
- ・席数 - 椅子席 1階席 1,544席
2階席 576席
3階席 580席

■ 平面図・断面図

著作権保護のため図面の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(1) 大ホールのイメージ ～フェスティバルホール～ 〈クラシックと軽音楽の両立〉 ②

■ 座席表・内観イメージ

著作権保護のため図面の掲載を割愛しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

■ 音響

音響効果を計算されて造られており、「天から音が降り注ぐ」と形容される美しい響きが特徴。

この計算は、壁面のパネルの形状や天井の形に現れている。

音響反射板は電動・レール走行式で、客席壁面と同一のマホガニー材が使用されており、本格的な音楽ホールとしての音響性能を備えている。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(2) 大ホールのイメージ ～兵庫県立芸術文化センター～ 〈クラシックと軽音楽の両立〉 ①

■ 兵庫県立芸術文化センター 大ホール

県民の心豊かな生活、そして阪神・淡路大震災からの心の復興、文化の復興のシンボルを目指して誕生。幅広い舞台芸術が上演できる大・中・小の3つのホールを備えた文化施設。

4面舞台を有する大ホールは大掛かりな舞台装置が必要な公演にも対応。4層バルコニー形式の大型収容ホールにもかかわらず、舞台と客席の距離感を感じさせない設計と豊かな残響で、臨場感溢れるパフォーマンスを提供できる。

■ 施設概要

- ・開館 2005年10月
- ・住所 兵庫県西宮市高松町
阪急神戸線「西宮北口」駅徒歩2分
JR東海道線「西宮」駅徒歩15分
- ・面積 敷地面積: 13,227m²
建築面積: 10,530m²
延床面積: 33,680m²
- ・形状 固定席
- ・席数 - 椅子席 2,001席

■ 平面図・断面図

著作権保護のため図面の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(2) 大ホールのイメージ ～兵庫県立芸術文化センター～ 〈クラシックと軽音楽の両立〉 ②

■ 座席表・内観イメージ

著作権保護のため図面の掲載を割愛しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

■ 音響

主舞台に可動式の音響反射板が設置されており、使用しない場合は後舞台の後方まで移動可能。

また、奥舞台と主舞台の間に防音壁を設置することで、奥舞台が主舞台と完全に分離された防音空間となり、本番直前まで奥舞台での音合わせ等が可能。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(3) 中ホールのイメージ ~穂の国とよはし芸術劇場~ 〈伝統芸能にも対応した舞台設備〉 ①

■ 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール

東三河市民のための演劇・舞踊・音楽等の芸術文化の振興と、芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図るため開館。主ホールは舞台芸術の創造と上演に対して良質な劇場環境を実現し、出演者の熱気や緊張感、生の台詞が客席に自然に伝わることに配慮した親密感のある劇場である。

■ 施設概要

- ・開館 2013年4月
- ・住所 愛知県豊橋市西小田原町
JR「豊橋」駅 徒歩3分
東海道新幹線「東京駅」～「豊橋駅」約85分
「名古屋駅」～「豊橋駅」約19分
- ・面積 敷地面積: 7,613m²
建築面積: 4,222m²
延床面積: 8,037m²
- ・形状 固定席
- ・席数 - 椅子席 778席

■ 平面図・断面図

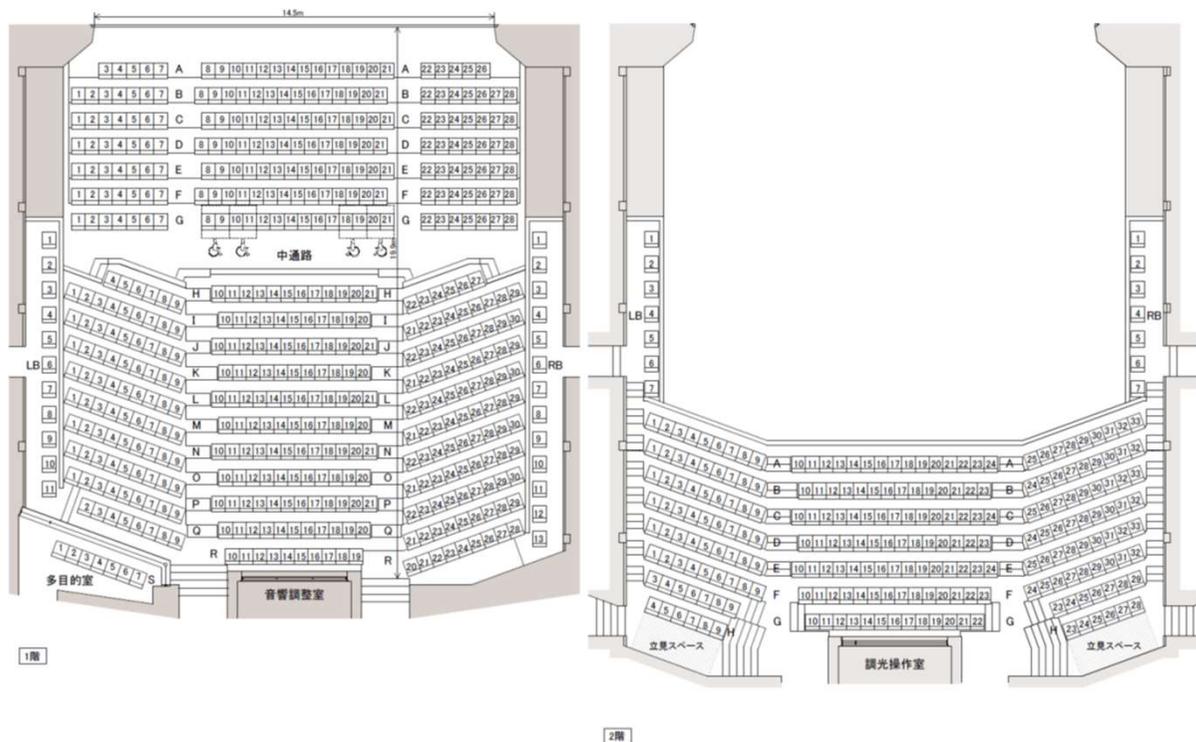
著作権保護のため図面の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(3) 中ホールイメージ ~穂の国とよはし芸術劇場~ 〈伝統芸能にも対応した舞台設備〉 ②

■レイアウト、利用イメージ

□標準形式



著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

- 様々な演出や活動に対応する自由度が高く、仮設性に富んだ舞台設備
- 基本的な劇場としての性能を備えた上で、市民の創造活動による発展性を秘めた劇場づくりを行っている

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

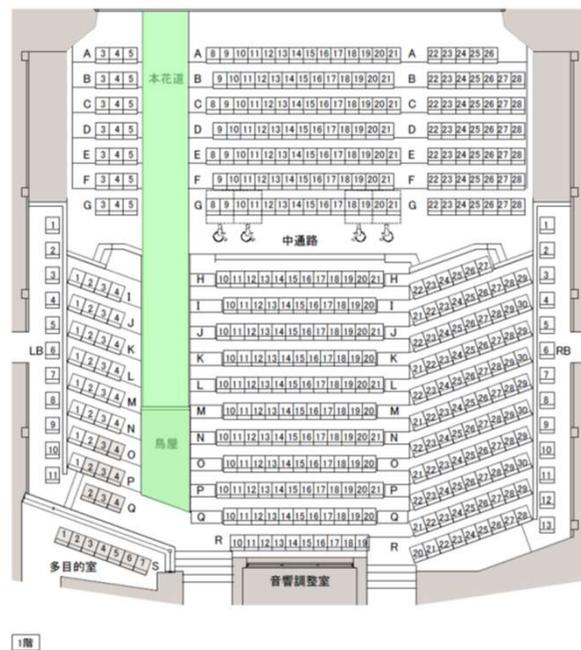
(3) 中ホールイメージ ~穂の国とよはし芸術劇場~ 〈伝統芸能にも対応した舞台設備〉 ③

■ レイアウト、利用イメージ

□花道形式 (左: 脇花道、右: 本花道)



脇花道設営時



本花道設営時

- 東海圏の中規模劇場としては希少な仮設本花道脇花道の設置が可能。和ものの上演にも適する
- 東立て式の床構造を活用してプロセニウム形式だけでなく客席最前列との段差のないオープン形式での上演も可能
- 演出意図により劇場を様々な形式に変化させることができる

本花道1

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

本花道2

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設 (4) 第3のホールのイメージ 高崎芸術劇場

＜フレキシブルな空間＞①

■ 高崎芸術劇場 スタジオシアター

高崎芸術劇場は、高崎における新たな文化の創造・発展の場として、群馬音楽センターの歴史を受け継いだ大規模劇場である。スタジオシアターは、演劇、舞踊、能など多彩なパフォーマンスが可能な中規模劇場で、3間、5間、7間と舞台の大きさを変更可能、スタンディング形式にも対応している。

■ 施設概要

- ・開館 2019年9月
- ・住所 群馬県高崎市栄町 JR「高崎駅」から徒歩5分
上越・北陸新幹線「東京駅」～「高崎駅」約50分
- ・面積 敷地面積:10,983㎡
建築面積:8,815㎡
延床面積:27,204㎡
- ・形状 平土間+固定席
- ・席数 椅子席 389席～568席（うち2階席98席）
例) 3間舞台時 568席
5間舞台時 466席
7間舞台時 389席
スタンディング 利用時
平土間最大1000名+2階席98席

■ 平面図・断面図

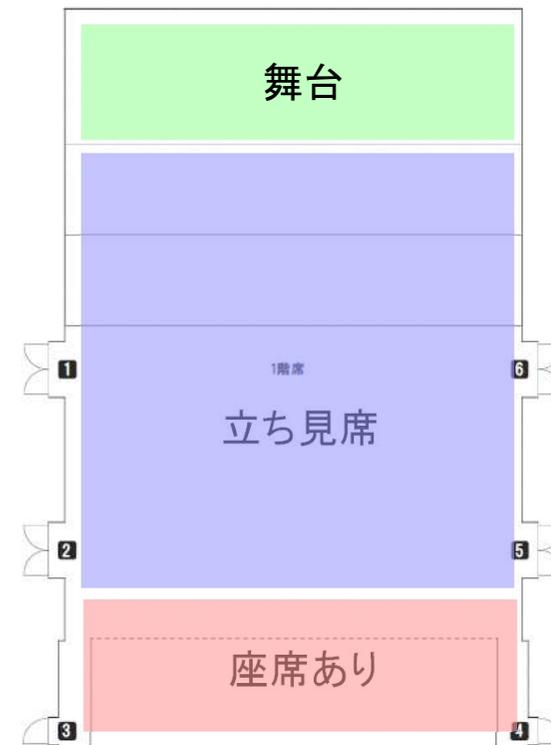
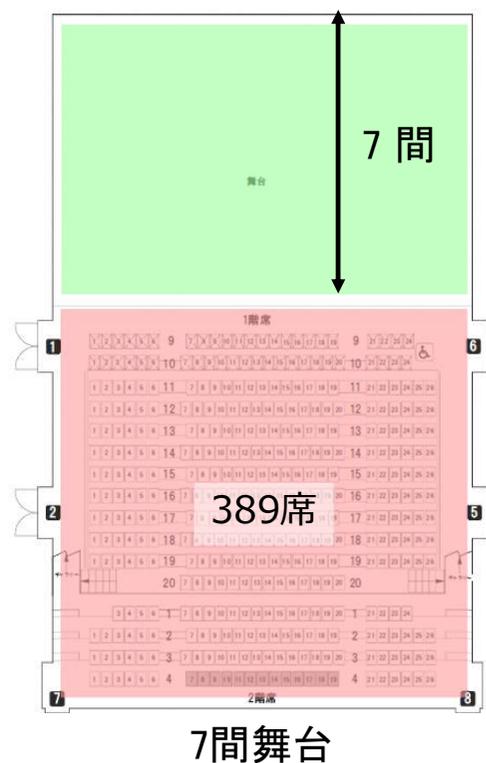
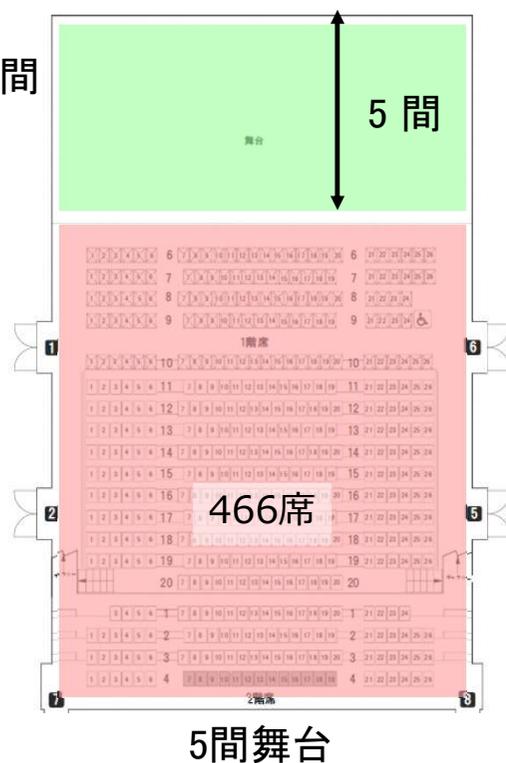
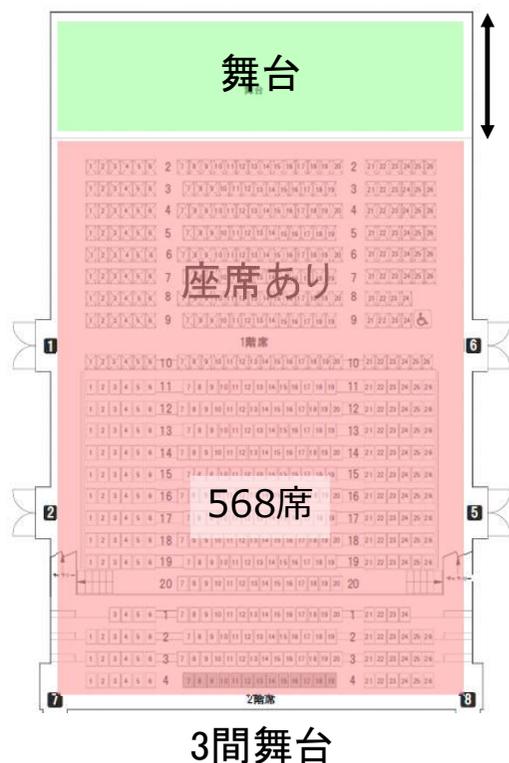
著作権保護のため図面の掲載を割愛しております。

著作権保護のため図面の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設 (4) 第3のホールのイメージ 高崎芸術劇場

<フレキシブルな空間> ②

■ レイアウト、利用イメージ



著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

3間舞台(舞台から)

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

3間舞台(客席から)

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

3間舞台

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

□スタンディング形式

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(4) 第3のホールのイメージ EX THEATER ROPPONGI 〈多彩なイベントスペース〉①

■ EX THEATER ROPPONGI

テレビ朝日オフィスビル「EX Tower」に隣接する中規模劇場。音楽ライブに加え、演劇、ミュージカル、映画、ライブビューイング、ファッションショー、企業式典、スポーツイベントなど幅広いイベントの用途に対応可能な多機能性を持つ。

■ 施設概要

- ・開館 2013年11月
- ・住所 東京都港区六本木1丁目
日比谷線・大江戸線「六本木駅」から徒歩5分
千代田線「乃木坂駅」から徒歩8分
南北線「麻布十番駅」から徒歩11分
- ・面積 敷地面積:3,549㎡
建築面積:3,011㎡
延床面積:6,773㎡ (EXシアター部分のみ)
- ・形状 平土間+固定席
- ・席数 - 椅子席
通常 924席
最大 938席
- スタンディング 最大1,746名
B3Fアリーナ 1,450名
B2Fバルコニー席 48席
B1Fスタンド席 248席

■ 平面図・断面図

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

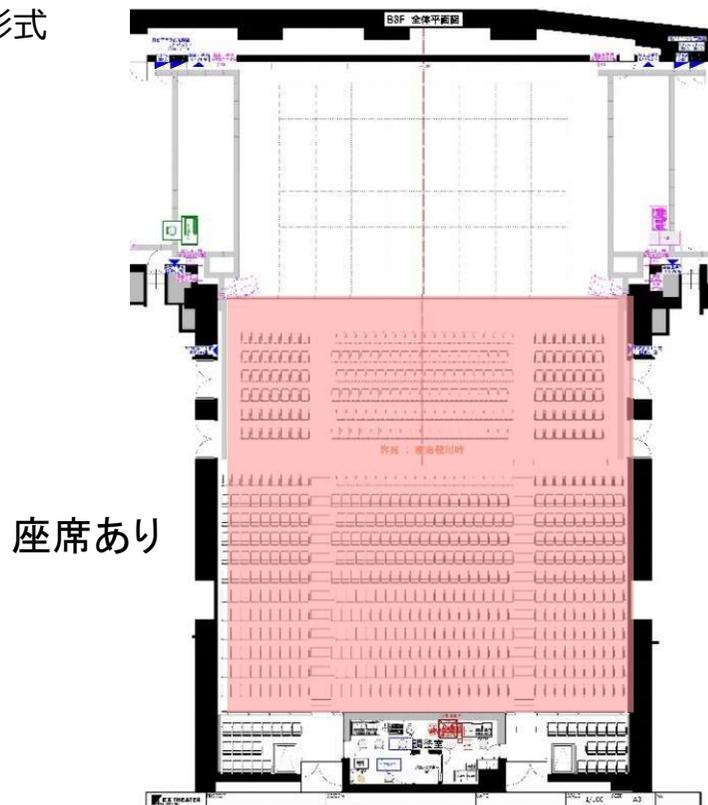
著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

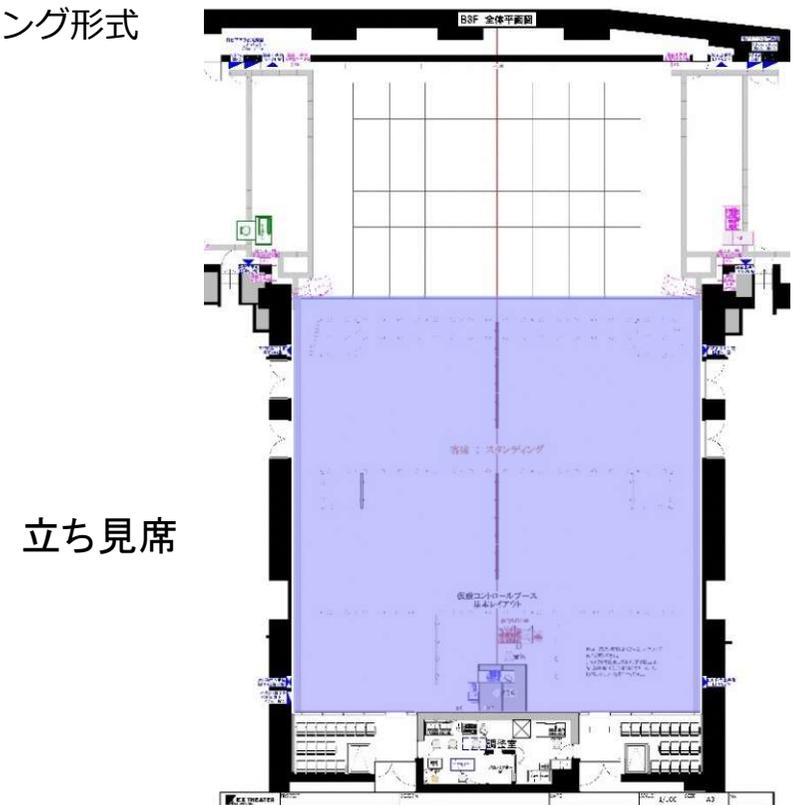
(4) 第3のホールイメージ EX THEATER ROPPONGI 〈多彩なイベントスペース〉 ②

■ レイアウト・利用イメージ

□ 椅子形式



□ スタンディング形式



著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(4) 第3のホールイメージ EX THEATER ROPPONGI 〈多彩なイベントスペース〉③

□椅子形式

- ・歌舞伎（花道あり）
- ・お笑いライブ
- ・2.5次元コンテンツ
- ・ミュージカル
- ・番組収録
- ・試写会、映画祭

□スタンディング形式

- ・ライブ、コンサート

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(5) ホール以外のイメージ ①賑わいや交流が生まれる空間、複合利用を想定した諸室例

■北上市文化交流センター さくらホール

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

ロビー空間を活用したりハーサル

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

室内での活動の様子が
見えるガラス張りの練習室

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

階段の踊り場をステージにしたミニコンサート

■山形県総合文化芸術館

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

スタジオ 1

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

スタジオ 2

グランドピアノを有するスタジオは、オーケストラや吹奏楽の練習以外に簡易ステージや照明を設置して発表会などの会場としても利用可能

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(5) ホール以外のイメージ ②居心地の良い空間づくり

太田市美術館・図書館

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

座って本が読める大階段／雑誌の読めるフリースペース

バンコク・アート・アンド
・カルチャーセンター

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

現代美術・文化振興を目的にバンコク都によって設立。
美術、音楽、舞台芸術、映画、文学、デザインの展示を行う。
入場無料の吹き抜け空間にアート作品が無数に展示され、
ふらっと立ち寄るだけでも充実した時間を過ごすことができる。

国立新美術館

著作権保護のため写真の掲載を割愛しております。

5 新たな劇場のイメージとして参考になる施設

(5) ホール以外のイメージ ③居心地の良い空間づくり (新しいカフェのかたち)

ブックカフェの事例

著作権保護のため写真の
掲載を割愛しております。

蔦屋書店 (枚方 T-SITE内)

著作権保護のため写真の
掲載を割愛しております。

スターバックス TSUTAYA 横浜みなとみらい店

誠品生活 (台湾)

著作権保護のため写真の
掲載を割愛しております。

コワーキングカフェの事例

著作権保護のため写真の
掲載を割愛しております。

LOST WEEKEND (ミュンヘン)

Campus Madrid (マドリード)

著作権保護のため写真の
掲載を割愛しております。

6 今後の整備検討スケジュール（案）

1. 整備検討懇談会（予定）

第5回 新たな劇場の立地場所、主要駅からの来場者動線、管理運営主体について

第6回 基本構想（素案）について

2. 新たな劇場整備に向けた計画策定（想定）

基本構想

新たな劇場のミッション、位置付け・役割、劇場の規模・機能、立地条件、管理運営主体など

基本計画

新たな劇場の整備に必要な諸条件の整理（施設・管理運営）

整備計画

基本計画を踏まえた具体的な整備計画の策定（公募に向けた要求水準書の策定を含む）